



調査概要

調査目的：医師のブランド想起を元に、各プロモーションの有効性を定期的にトラッキング
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：全国の臨床医

有効回答：約10,000s

調査期間：年4回（1・4・7・10月）

調査主体：株式会社インテージヘルスケア



製品想起ランキング

※医師が製品5つを想起し、各製品の印象を評価。
 下記ランキングは印象が「ニュートラル以上(ポジティブ)」のみを分析対象とする。
 ※下記結果は診療科問わずTOTALで算出（診療科等による絞込みも可）

参考データ

SOC

SHARE OF CHANNELS

※MRは

「MRディテール+MRオンライン面談+MR院内説明会」の合計

IMPACT TRACK

2024年7月 TOTAL想起数

2024年7月 MR想起数

2024年7月 ノンプロ想起数

2024年4月-6月 MR宣伝回数



- 1 エンレスト
- 2 フォシーガ
- 3 ジャディアンズ
- 4 デエビゴ
- 5 マンジャロ
- 6 タケキャブ
- 7 タリージェ
- 8 ビラノア
- 9 アミティーザ
- 10 リベルサス

- 1 ジャディアンズ
- 2 マンジャロ
- 3 エンレスト
- 4 フォシーガ
- 5 アレジオン
- 6 リベルサス
- 7 ソコーバ
- 8 ケレンディア
- 9 タリージェ
- 10 アレックスビー

- 1 エンレスト
- 2 デエビゴ
- 3 タケキャブ
- 4 フォシーガ
- 5 タリージェ
- 6 ジャディアンズ
- 7 ビラノア
- 8 ロキソニン
- 9 カロナール
- 10 アミティーザ

- 1 フォシーガ
- 2 エンレスト
- 3 マンジャロ
- 4 ジャディアンズ
- 5 グーフィス
- 6 リベルサス
- 7 タケキャブ
- 8 アミティーザ
- 9 タリージェ
- 10 パルモディア

SOC2024年7月 TOTAL想起数No.1はエンレスト

全チャンネル総合で最も想起された薬剤はエンレストであった。エンレストはMR想起数では3位にランクダウンしたが、ノンプロモーション想起数では1位をキープし、2021年10月以降連続してTOTAL想起数No.1を獲得している。

花粉症シーズンを終えたビラノアがTOTAL想起数・ノンプロモーション想起数において順位を下げた一方、MR想起数で2位に上昇したマンジャロはTOTAL想起数においても前回10位から5位へ順位を上げた。MR想起数では前回に続きジャディアンズが1位であった。

本調査結果・SOCに関するお問い合わせ ant-syndicated@intage.com

*記事本文・データ転載をご希望の際は、上記メールアドレスにご連絡ください

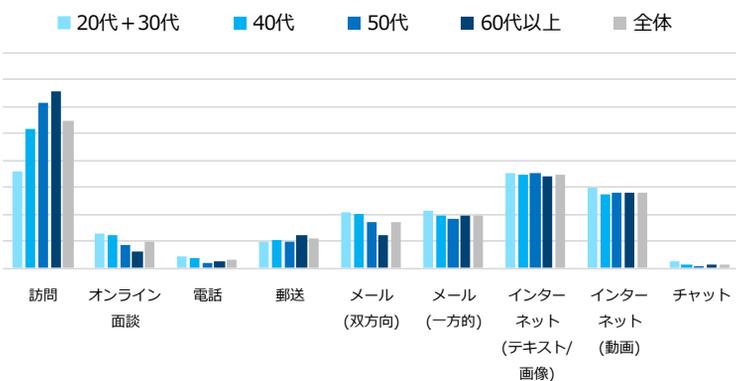
2024年7月度SOC調査では、製薬会社からの情報提供について「Q1.医師が求める情報の種類と提供手段」「Q2.メーカー全体としての情報提供活動の評価」を追加設問として聴取いたしましたので、一部サマリーをご報告させていただきます。

情報の種類ごとに、医師が求める提供手段を把握

Q1. MRに限らず製薬メーカーから得られる情報について、情報の種類ごとに、先生が望ましいと思う情報提供の手段をお知らせください。
(回答は情報の種類ごとにくつでも)

情報提供の手段として望ましいと回答された割合 2024年7月

医師年代別 10種類の情報 平均



情報の種類 / 情報提供の手段は以下の項目にて聴取

情報の種類	情報提供の手段
・新薬に関する情報提供	・訪問
・既存薬に関する情報提供	・オンライン面談
・開発品に関する情報提供	・電話
・副作用の情報提供	・郵送
・供給情報	・メール(双方向)
・講演会の案内	・メール(一方的)
・問い合わせ対応	・インターネット(テキスト/画像)
・学会情報	・インターネット(動画)
・疾患に関する情報提供	・チャット
・最新の手技について	・その他

情報提供活動の総合評価をメーカー別に把握

Q2.手段を問わず、情報提供活動を総合的に評価できるメーカーをお知らせください。(指定50社から最大10社を選択)

情報提供活動における総合評価No.1メーカー(主診療科/HPGP別) 2024年7月

(HP: 100床以上/GP: 99床以下)

主診療科	HP	GP
一般内科	アストラゼネカ	第一三共
循環器内科	第一三共	第一三共
消化器内科	武田薬品	武田薬品
呼吸器内科	アストラゼネカ	グラクソ・スミスクライン
血液内科	中外製薬	EAファーマ
糖尿病内科	リリー	ノボルティスファーマ
リウマチ科	旭化成ファーマ	旭化成ファーマ
腎臓内科	協和キリン	協和キリン
神経内科	エーザイ	大塚製薬

主診療科	HP	GP
一般外科	第一三共	第一三共
心血管外科	大塚製薬	小野薬品
消化器外科	大鵬薬品	ツムラ
呼吸器外科	アストラゼネカ	アストラゼネカ
整形外科	旭化成ファーマ	旭化成ファーマ
脳神経外科	第一三共	第一三共
乳腺外科	リリー	アストラゼネカ
産婦人科	MSD	ツムラ
皮膚科	マルホ	マルホ

主診療科	HP	GP
泌尿器科	アステラス製薬	アステラス製薬
耳鼻咽喉科	サノフィ	杏林製薬
精神科	大塚製薬	大塚製薬
眼科	参天製薬	参天製薬
小児科	アストラゼネカ	MSD
放射線科	バイエル薬品	バイエル薬品
麻酔科	MSD	第一三共
救急科	旭化成ファーマ	ファイザー

青字: 前回調査からNo.1メーカーが入れ替わった

* 評価をした理由は聴取しておりませんが、弊社シンジケートデータ(SOC/ImpactTrack/Rep-i)と組み合わせると分析が可能です

情報提供の手段として望ましいと回答された割合を10種類の情報の平均で医師年代別に確認すると、「訪問」を望ましいとする割合は年代が高いほど高く、「オンライン面談」や「メール(双方向)」を望ましいとする割合は年代が若いほど高めの傾向がみられた。「インターネット(テキスト/画像)」を望ましいとする割合については、年代による顕著な傾向の違いはみられなかった。

情報提供活動における総合評価No.1メーカーを主診療科ごとにHP/GP別で確認すると、前回の2024年4月度調査からNo.1メーカーが入れ替わったのは、血液内科HP・GP、神経内科GP、一般外科HP、心血管外科GP、産婦人科GP、小児科HP、救急科GPであった。

* 本追加設問にご興味ございましたら、以下アドレスもしくは担当者へご連絡ください

本調査結果・SOCに関するお問い合わせ [✉ ant-syndicated@intage.com](mailto:ant-syndicated@intage.com)

* 記事本文・データ転載をご希望の際は、上記メールアドレスにご連絡ください